

## 平成 26 年度第 2 回岩手県地方独立行政法人評価委員会 結果概要

I. 日時 平成 26 年 7 月 31 日（木）15：00～16：45

II. 場所 いわて県民情報交流センター アイーナ 7 階 702 会議室

### III. 参集者

1 岩手県地方独立行政法人評価委員会

西崎滋委員長、熊坂伸子委員、下田栄行委員、恒川かおり委員、工藤昌代委員、関内隆専門委員

2 岩手県立大学

石堂淳企画本部長ほか県立大学事務局職員

3 事務局（県総務部総務室）

総務部 佐藤副部長兼総務室長ほか総務室・人事課職員

### IV. 会議要旨

【西崎委員長】 それでは、先日のヒアリングを受けまして、平成 25 年度の県立大学の業務実績について評価委員会の評価を確定していきたいと思えます。御協力をお願いします。

まず、本日の会議の公開の取扱いについて、お諮りします。

「審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき、本日の会議の内容は、公開で進めさせていただく事を御提案したいと思えますが、よろしいでしょうか。

【一同】 （異議なし）

【西崎委員長】 では、異議なしということで公開として進めさせていただきます。

#### 議題 1 平成 25 事業年度公立大学法人岩手県立大学の業務の実績に関する評価について

【西崎委員長】 それでは第 1 議題「平成 25 事業年度公立大学法人岩手県立大学の業務の実績に関する評価について」の審議に入ります。No. 1 の資料について事務局からの説明ののち御審議いただきます。次に全体評価について御意見をいただきたいと思えます。

では、項目別評価（案）について事務局から説明をお願いします。

【事務局】 （資料 1 により説明）

【西崎委員長】 ただいま御報告いただいた項目別評価について何か御意見はございませんか。

委員の評価が分かれたところについて意見交換をしていきたいと思えます。まず No. 1 です。

これは随分意見が分かれたところで、少しアドミッション・ポリシーそれからディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを導入した経緯について、県立大学から補足していただいてよろしいのですけれども、多分国立大学も同じだと思えますのでそれを例に説明しますと、最初にアドミッション・ポリシーはかなり前に策定していました。もちろん、アドミッション・ポリシーを策定することは明文化されていないけれども、大学でどういう人材を育成してどういう教育をするかという合意があって、それを基にアドミッション・ポリシーを策定しました。第 2 期に入って、認証評価の評価基準との兼ね合いでディプロマ・ポリシー

やカリキュラム・ポリシーを策定する必要が出てまいりました。来年の認証評価に向けて準備されてきたのだと思います。

そういう意味では、アドミッション・ポリシーは先に決まっています、その後、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーをどうするべきか、という運びになったのではないかと思います。それで、アドミッション・ポリシーとの整合性を、という話が出てきたのだと思います。

かなり厳しい評価を下田委員はされておりますが、具体的にアドミッション・ポリシーと他のポリシーとの矛盾があるのであればそれを指摘していただいてもよろしいのですが、私自身は、まだそこまでの評価を出す段階ではないと思います。PDCAのサイクルでいうと、Plan、Doの辺りで、これからチェックして見直すという段階に入るのかなという感じで、一応年度目標は達成したのではないかということで、むしろ心配なのは、大学院の定員充足、これはどこまで実行できるのかということです。

この辺り、下田委員、熊坂委員、何か補足することがあれば、説明していただければと思いますが。

**【下田委員】** 私は教育の中身については、全く分かっていないので、個人的な印象としてC評価をつけたのですが、アドミッション・ポリシーが入口で、ディプロマ・ポリシーが出口で、カリキュラム・ポリシーが中身だということだと思うのですが、年度目標としては、アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの整合性を図りつつ、アドミッション・ポリシーの見直しを図るということで、この整合性という所が、カリキュラム・ポリシーが具体的にない中で、どうやって整合性を図るのだろうかという疑問が最後まで残ったので、目標の達成まで至っていないのではないかと。

全体の整合性を取るといえるのは、ある程度全体が具体的にないといえない話ではないかなという印象だったので。

**【関内委員】** 一般的に、アドミッション・ポリシーというのはどの大学も早めに出しています。つまり、こういう学生が欲しいとか入学して欲しい学生像、こういう意欲を持った学生が欲しいとかは、割と細かくなく抽象的・一般的なものなのですね。

難しいのは、言われたようにどういう学生を社会に送り込むかというディプロマ・ポリシーとそのためにもどういう教育を行うかということですので、言われた通りかもしれませんが、ここの項目は、入学者の受入の話をしているわけで、すでにアドミッション・ポリシー自体を公表していて、県立大学としてこういう学生が欲しいというのは伝わっているもので、それ自体は問題ないのではないかとというのが1つで、もう1つ、No.8の方は後で県立大学の方に聞いてみたいと思っておりました。

No.1自体は入学者の受入について、どれだけ正確な、豊かな情報発信をできたかどうかということですので、それほど大きな問題はないのではないのでしょうか。

**【西崎委員長】** それから、年度計画は3つあって、他の2つについては十分達成していることでもありますし、ちょっとCというのは厳しいかなと。

**【関内委員】** 大学院の定員充足は、他の大学も同じような状況です。認証評価で求められる充足率の水準が低いので、それ自体はあまり問題にならないかと。

**【西崎委員長】** 定員充足に向けて何らかの取組をしているかがむしろ重要です。

【下田委員】 検討を行った結果、見直しの必要性がないというのは、問題ないのですか。

【西崎委員長】 これは、大学全体のアドミッション・ポリシーですね。かなり一般的に作ってあると思うので、正直言って、ディプロマ・ポリシーというのは、明文化されていないけれどもこういう学生を育成しようというのは元々あった訳で、それを睨んでアドミッション・ポリシーを決めている訳なので、これが矛盾するような内容にはならないはずのものです。

【下田委員】 入口は広く取るということなのでしょうかね。思ったのは、カリキュラム・ポリシーが具体的になった段階で、ディプロマ・ポリシーにも影響して、結果、変わっていくものなのかなという気がしたのですよね。

【西崎委員長】 ディプロマ・ポリシーが基にあるでしょう。それに到達できるようにカリキュラム・ポリシーを熟考して、アドミッション・ポリシーに回ってくるというのはあるでしょう。

【熊坂委員】 私はBにしたのですけれども、Aまでには至らないのかなという感じがして。No. 8との関連も気になったのですけれども、それぞれのポリシーとしての機能が十分に定着していない段階、もう一息なのかなという感じで、Aの手前という意味でBにしたのですけれども。

【西崎委員長】 それはこれからの課題になると思います。計画は、まず作ろうということで、それは達成できたのだとみなしていいのだと思います。

【熊坂委員】 あと、学部間の温度差もちょっと気になって、それが全学統一感のとれたという辺りにあと 0.5 歩みたいところでAにちょっと足りないかなと思ってBにしましたが。

【下田委員】 私はBでも結構です。

【西崎委員長】 それでは、御了解いただきましたので、最終評価もこのところは計画を達成したというA評価になりますよね。

No. 2のところは、何名かの委員はA評価ということでしたけれども、いろいろな取組をされているというところで、AA 評価ということで御了承いただけますか。

【一同】 (異議なし)

【西崎委員長】 No. 8 の学位授与の方針と整合性のある体系的な教育課程を編成するとともに、定期的にカリキュラムと学習成果の検証を行うという中期目標に対し、年次計画では、「学位授与の方針と一貫性のある教育課程編成・実施の方針を円滑に導入し、定着を図る。」と「社会福祉学部において、平成 26 年度から始まる新しい学部体制に対応したカリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーを作成する。」というところですが、後半の部分は達成できたということで、前半が未達成ということで自己評価もCとしたのですよね。

中期計画との関係で、学習成果の検証をどのように具体的にを行うのかは年度計画に載っていなかったところでありまして、これまでそういった取組があれば教えていただきたいのですが。あと 2 年間でどのように行っていくのか。

【関内委員】 むしろお聞きしたかったのは、平成 25 年度に策定したということによろしかったでしょうか。「社会福祉学部において、平成 26 年度から始まる新しい学部体制に対応したカリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーを作成する。」とあって、それは作ったとい

うことでよろしいですよ。自己評価がなぜCなのかということですよ。

【西崎委員長】 前半の部分ですよ。もっと広い意味での定着を図る話があって、学部の方はオーケーということですよ。

【石堂企画本部長】 No.1にも関連しておりますけれども、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーにつきましては、本学が平成24年度に策定して、平成25年5月からは全学部公表しております。その上で、昨年度の委員会で策定したことについて、5月に公表することを報告書で報告いたしましてAの自己評価を認めていただいているところであります。

昨年度の段階で既にディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについては策定し公表していたところであります。

社会福祉学部につきましては、平成26年度に学科再編がございまして、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの内容が変わってきますので、昨年度は社会福祉学部の方でその改訂を行ったところであります。その関係で、ホームページ上で公開している社会福祉学部のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーにつきましては、旧課程と新課程の2つあります。

策定という導入という意味では、昨年度既に策定したところであり、こちらの説明不足で誤解を受けたのであれば、大変申し訳ございませんでした。

本学では、学生の満足度アンケート、教職員アンケートといったところで、大学の理念がどれだけ定着しているか測定しておりますけれども、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの定着まで行っておりません。

まだ、意識的な部分で定着していない部分があって、そこをどうやって定着させていくか、運用面でも個々のカリキュラムの内容をポリシーに合わせた形で運用していくかという点で立てた計画でありまして、その辺が不十分だということで今回はCということになっているものでございます。

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーは、昨年度作ったものですから、学生たちが卒業するのは、3年後、4年後ですから、その時にどういう指標でディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを評価するのかということとはございますけれども、本学の場合は認証評価の関係もございまして、1つの指標として、卒業生が就職した企業等にアンケートを行いまして、本学の人材育成目標に合った形で学生が配置されているかという点では確認しておりますので、今後、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーがどれだけ実効性を持ったかというのが測定されるということになっております。

【下田委員】 前回、ちょっと質問させていただいて、No.8のC評価とNo.1との関係についてお聞きした時に、アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシーは導入したけれども、カリキュラム・ポリシーは具体性を図られていないとの回答があったと理解したのですが、そうではなくて、導入はされていて、すでにあるものについて定着が図られていないということなのですか。

【石堂企画本部長】 カリキュラム・ポリシーも方針ですので、方針に合わせて必要に応じてカリキュラムや授業の内容を変えなければいけないということも出てくると思うのですが、それも。

【下田委員】 ポリシー自体は変える必要がないものがあるということですよ。

【石堂企画本部長】 ポリシーに合ったカリキュラム体系を整備していった、そのカリキュラムに沿って4年間で学生が出た時にディプロマ・ポリシー通りの学生になったかどうかを測定しなければいけないと理解しております。

方針ですので、細かい科目うんぬんではなくて、こういった能力をつけるためにどういったカリキュラムの順序を組み立てていますといったものですので、そのとおりにカリキュラムが構成されるかどうかは、一気にというのはなかなか難しいので、調整しながら、ということになります。

【下田委員】 年度計画に載っていたカリキュラムの円滑な導入・定着というのは、具体的にはどのようなことを意図していたのですか。

【石堂企画本部長】 これは学部によって、ということはあるのですが、全学的・一般的に言わせてもらえば、具体的には実習・演習をポリシーに合わせた内容に変えていかなければならない、そのポリシーに合わせた新たな科目の必要性も出てくると思います。その場合には、カリキュラムを改定して新たな科目を起す必要があると思います。

そういったものが、カリキュラム・ポリシーができた時に、全てできるわけではありませんので、順次体系を整える、そういったものがある程度整備されたところで定着というものが出てくる。そのような動きをしなければいけないのですが、正直な所うまくいっていないというところで、自己評価としてはC評価となったところです。

【下田委員】 当初思っていた事と実態が違っているというのは分かってきました。

【西崎委員長】 自己評価Cと同じでよろしいですか。

【下田委員】 はい。

【関内委員】 自己評価Cも相当厳しい評価ですよ。普通、数年かかって行うものです。この感じだと、来年度もCですよ。

【西崎委員長】 結局、ディプロマ・ポリシー通りの学生が卒業したか検証する時に。

【関内委員】 大学が謙虚に自己評価することは非常にいいことです。

【西崎委員長】 No.13 は、熊坂委員から教員間相互授業聴講の取組は、少なくとも半数以上の教員が取り組める程度に定着を図り、その上での成果の検証が必要だという意見がございました。

教員の半数以上というのは非常に難しいですよ。

【熊坂委員】 難しいとは思いますが、目標は高く。

【西崎委員長】 A評価で御了解いただけますか。

【熊坂委員】 はい。

【西崎委員長】 No.17、18 は半数以上の委員がAA評価ということで、これはよろしいですね。

【一同】 (異議なし)

【西崎委員長】 No.19 は、熊坂委員はB評価とのことですが、何か御意見があれば、A評価でよろしいですよ。

【熊坂委員】 よろしいと思います。

【西崎委員長】 No.20 について、私の意見は、ソフトウェア情報学部と総合政策学部でインターンシップを単位化し、キャリア教育体系に組み込んだ点を評価するというので、元々の年度計画を単位化まで進めたというところで AA という評価をいたしました。他にも AA 評価した委員がいらっしゃいました。恒川委員から、154 社への就業サポーター企業の勧誘など努力されています。企業に向けて一定の質を保証する方策の検討が要と考えますとの意見をいただきました。下田委員、工藤委員から何か意見があれば。ちょうど半々です。

【関内委員】 私は AA ですけれども。卒業生アンケートの中で、インターンシップは効果があったという結果を踏まえて、単位化したので P D C A サイクルを回しているということと、いろいろなキャリア教育をやられているのが特色かなと思いました。

【熊坂委員】 私も AA にしましたけれども、A でもいいと思います。年度目標は達成していると思いますが、特筆すべきとまではいえないと言われればそうかもしれません。

【西崎委員長】 インターンシップを単位化するというのは大変だと思うのですよね。インターンシップも企業にお願いしているものでもありますから。

【工藤委員】 企業からすると学生を受け入れて大事なことを事前に伝えることができるというのは、あったほうが絶対いいと思うことですね。

私は、就業サポーター企業 154 社というのが気になって。この中に私どもも入っていたのだと思いますけれども、何か求められたことがあったかな、というのがありまして。

【西崎委員長】 ここは、意見が分かれたということで、4.5 の A 評価でよろしいですか。

【一同】 (異議なし)

【西崎委員長】 No.21 は関内委員から B 評価ということで、県内就職の促進を図るために、大学が情勢の分析を行い、就職促進に向けた方策を構築するなど、一層積極的な活動を展開することが期待されるという御意見がありました。

【関内委員】 これは、ヒアリングの際に委員の方々からいろいろ御質問があって、私は就職関係の専門ではないということもあり、それを受けて低めに評価しました。

【西崎委員長】 これは A 評価でよろしいですか。

【関内委員】 はい。

【西崎委員長】 次は No.26 ですが、恒川委員から学部毎に研究成果の評価方法の改善を図っているということで A 評価ではないかと。

私としては、まだ 2 つの学部と 1 つの短大ということで、全学的にはもう少しという気がしました。

これは、B 評価ということにしたいと思います。

【西崎委員長】 次に No.28 ですが、関内委員からイノベーションセンターへの多くの企業入室、入室予定企業 1 社との共同研究合意など、産業界と地域団体等との連携強化に関して、着々と実績を上げているとの評価でございました。

私自身は、着実に進んでいるが、特筆すべき進展状況とまでは言えないのではないかとということで A 評価といたしました。

【関内委員】 A評価で問題ありません。

【西崎委員長】 次のNo.30は、4.7のAA評価ということで了解いただけますか。

【一同】 (異議なし)

【西崎委員長】 それでは、No.33は昨年度もそうだったのですけれども、海外協定締結機関が増加したというのは具体的な成果ではないかということで、私はAA点評価でしたが、学术交流がどうかという点では少し不十分だという気がいたします。震災復興等いろいろな業務が増えている中で難しい面はあると思います。

No.33はA評価のままでよろしいですか。

【一同】 (異議なし)

【西崎委員長】 次のNo.36ですが、ちょうど3人ずつ評価が分かれたところであります。私自身は、組織運営の改善のために「評価委員会」並びに「情報システム運営センター」等、具体的改善が進んでいるなという印象でした。

【関内委員】 私もある意味では評価しておりますがもっときめ細かくと。

【熊坂委員】 特筆すべき、まではいかないかと。

【関内委員】 工藤委員と同じような意見でしたけれども。私自身は、AAでも構いません。プラス希望を書いたということです。

【西崎委員長】 年度計画を見てということなので。

【熊坂委員】 Aで十分だと思います。年度計画は十分達成されていると思います。

【西崎委員長】 年度計画が、整備・充実を図るということなので。

【関内委員】 確かにそうですね。もしよろしければ私はAAということで、全体の評価を変えてもらっても構いません。

【西崎委員長】 それでは、No.36につきましては、関内委員からの意見もございましたので、AAに変えていただいて、評価を1つアップすることにしたいと思います。

No.38も微妙なところだったのですが、私自身は、「岩手県立大学事務局人材育成ビジョン&プラン」を策定した、具体的にそういうところが形になったというところを評価してAAとしたところです。あとは、ビジョン&プランに沿って実施・実現するのをお願いしたいというところでもございましたけれども、ビジョン&プランを立てただけではだめだということでしょうか。

【熊坂委員】 そのような気がします。実施をお願いします。

【下田委員】 評価が難しいと思いました。プランの中身が分からないので。

【工藤委員】 数字ではないだけに。同じことを言ってもAだったりAAだったり。私としては、決めたというのはその通りなのですが、男女比率を考えた職員の募集は普通に実現してほしいという希望があって、それが当たり前になっているといいなど。

【西崎委員長】 どうなのでしょう、男女比率の話が出ましたけれども。県立大学の教員では看護学部があるから女性教員も比率が高いのですか。

【石堂企画本部長】 高いと思っております。おっしゃったように看護学部、盛岡短期大学部がありますので。あと、社会福祉学部も女性の比率は高いです。

【西崎委員長】 職員の方はどうなのでしょう。県の方から派遣される職員もいるでしょうか。

【中里企画課長】 職員は、法人採用職員はかなり女性が多いです。任期付での採用だったこともあって、女性が多い状況です。

【西崎委員長】 問題はなさそうですね。

【工藤委員】 評価していない訳ではないのです。素晴らしくAという評価なのです。

【西崎委員長】 それでは、No.38 もA評価とします。

それから、No.41 のところも評価が分かれております。科研費の応募率および採択率の向上を実現したということでAA評価といたしました。

【工藤委員】 採択率がアップしたということは、結果につながるものを出していたと。ただ出すだけではなく、それが成果につながるというか、採択率向上につながるものを出されたというところで、AAとしたのですけれども。

【西崎委員長】 それもそうなのですけれども、年度計画を見てもらうと、申請書作成のブラッシュアップを充実させというのがあって、その成果として採択率の向上につながったということです。

あまりサポートする意見がありませんね。

次にNo.42 ですが、下田委員から授業料未納率が増加していると。授業料未納がないようにと努力はされていると思うのですが、どうしても何名かの学生がそうになってしまうのは避けられないことと思います。

【下田委員】 全体としてはまだ低いと思います。

【西崎委員長】 評価はAということで。

それから、次のNo.43 ですが、私としては、「教育力強化枠」を設けて具体的な取組を行っているところを評価しましたが、ほとんどの方が必ずしもそうではないということで、A評価ということでやむを得ないですね。

それから、No.45 については、熊坂委員から、大学の評価には、様々な形で学生の声を反映させる仕組みが不可欠です。講義内容、指導内容、或いは施設整備状況、学生支援の体制等々に、在学生の声を吸い上げるしくみ、あるいは評価委員に学生代表も含めるなど、一考をお願いしますということですが、多分、校内アンケートとか学生の意見を取り入れることはやっているのだと思うのですが、それは間違いないですよ。評価委員会に学生をとというのはないかもしれませんが。

【石堂企画本部長】 学生には頻繁に授業アンケートを行っているほかに、入学生、2年次、卒業年次生となるべくこまめにアンケート調査を行って満足度調査を行っています。なるべく学生の評価や意見を取り入れるようにしています。

【西崎委員長】 よく言われるようになってきたのは、卒業時の満足度だけではなく達成度が重要だと言われています。ディプロマ・ポリシーをどこまで達成できたか、各学生がどのように自己評価するか。

【石堂企画本部長】 質問項目の中には、学生が目標としていた学習成果を達成できたかというような内容も組み込まれています。

【熊坂委員】 ヒアリングの時には、卒業生のアンケート結果については御説明があって、在学



生についてはあまりなかったので、1番先生方を評価するのは在学生だと思いますので、情報公開していただきたいなと思います。

【西崎委員長】 学生のアンケートは学生に返していますか。

【石堂企画本部長】 教員間では共有等を行っていますけれども、今後はそういった御意見をいただきましたので、考えていこうと思います。

【関内委員】 私もヒアリングの時にお聞きしたのですけれども、学生からの意見を常時どこかに掲出することができるシステムがあるのですか。

【石堂企画本部長】 制度としては学生提案制度ということで学生から提案された事項に回答することになっています。最近では意見が出てこないのですが。

【関内委員】 年間どのくらいあがっているというのはないのですか。

【中里企画課長】 今年度は2件ほど。

【関内委員】 食堂が狭くて困っているとか、他の大学ではいっぱいあがってくるかなと思うのですが。

【石堂企画本部長】 新入生、1年経っての2年生、3年生は抜けているけれども4年次の卒業生アンケートの中でかなり。自由記述欄には施設設備、あるいは教室の使用時間、冷暖房の問題など。

【関内委員】 あまり報告書にはそういうことが書いていなかったの。学生が遠慮してあまり書かなくなってきたのかな。

【西崎委員長】 食堂の利用者については色々な方法で声を集めているとは思いますが。

この評価はAでよろしいですね。

【一同】 (異議なし)

【西崎委員長】 No.46を御覧ください。これも4.5で意見が分かれたところであります。

私は、これまでの活動からするとテレビを活用した広報に取組んでおられて発信力が強化したかなという印象でした。

工藤委員から何かこの点に関してありませんか。

【工藤委員】 私があまりテレビを見ていないからいけないのかな。多分、いろいろと多面的な事をされているのですよね。インターネットではたまに情報を見ます。フェイスブックとかツイッターとか。

【西崎委員長】 ここはA評価ということで。

それから、No.49については種々の取り組みが具体的な成果を生んでおり高評価に値しますという評価をいただきました。ここは皆さんA評価ということで御了解ください。

最後のNo.50ですが、4名の委員の方がAA評価ということでよろしいですね。

それでは、項目別評価につきましては、2件訂正があります。No.1の項目につきましては、下田委員がC評価からB評価ということで、委員会評価はA評価と。No.36の項目につきましては、関内委員がA評価からAA評価ということで、平均が4.7で委員会評価はAAと訂正いたします。

他に項目別評価について御意見等がございましたら。

【一同】 (意見なし)

【西崎委員長】 続きまして全体評価について事務局から説明をお願いします。

【事務局】 (資料No.2により説明)

【西崎委員長】 全体評価について、課題になっておりました第1期中期計画からの継続課題ですが、先ほど御照会いただきました数値は修士課程・博士課程合わせての数値ですか。

【事務局】 そうです。

【西崎委員長】 修士課程と博士課程では数値がだいぶ違うと思うのですが、どちらに掲載されていますか。

【事務局】 資料4の2に全体の充足率は書いておまして、ページをめくっていただきましてそちらに定員未達人数は書いてあります。

【西崎委員長】 定員確保について引続き努めるというのは、留学生を求めて海外でも説明会をされているというのがありましたね。もちろん、国内でも、特に県立大学の学生に向けて宣伝等もされているわけですね。やる方策で何かアドバイスできればいいのですけれども。関内委員、何かあれば。

【関内委員】 社会人入学はどのくらいありますか。リカレント教育ですね。

【石堂企画本部長】 総合政策研究科の場合は、このアイーナを教室としてもっぱら社会人を対象として、昼夜開講、土曜日も行うような形で。公共政策特別コースというのを作っているのですけれども、当初は県や近隣の自治体の方に来てもらうのを念頭に、実際、自治体から派遣していただいたのですけれども、景気の問題とか震災以降は自治体でもそういった余裕はないと、社会的にも社会人が来る余裕がないのか今のところ次の手を考えるのが難しい状況です。

【西崎委員長】 このまま残しますか。引き続きお願いするというので。

【関内委員】 2行目から3行目まではかなり厳しい言い方な感じがします。評価委員会がこういうことを言っているかどうか。踏み込みすぎかなという感じがします。

【事務局】 第1期の評価が引き続いているものです。

【関内委員】 同じ文言を続けていいかどうかですよ。

「定員確保に向けて引き続き努める必要がある。」とする方法があるかもしれませんね。

【西崎委員長】 大学院の場合は、そういう可能性を持っておく方がいいということもありますよね。そういう意味では、大学院教育の必要性まで踏み込んで言及する必要はないかなと思います。

後半の「現在の研究科体制による大学院教育の必要性や適切な定員規模について検討する」までを削除することでよろしいですか。

【関内委員】 そうですね。そこは大学が自主的に考えることですから。

【西崎委員長】 他にございませんか。「改善が望まれる取組について」の表現は、先ほども議論がありましたように、ポリシーを定着させるのは1年、2年で片が付く問題ではないということもあって、後半部分の表現を工夫できないものかという気がするのですが。

【関内委員】 「学習成果を十分に検証した上で教育課程を編成することが望まれる。」というのは結構時間がかかりそうなので、「検証しつつ」ではないでしょうか。個別の授業科目に関する評価も含めて毎年やっていくものだと思いますので、「学習成果を十分に検証しつつ、教育課程の編成を見直す」でしょうね。そうすると、時間がかからないで毎年実施されますよね。

【西崎委員長】 最後のところに関内委員のおっしゃるとおり、「学習成果を十分に検証しつつ、

教育課程の編成を見直すことが望まれる。」と修正いただくことにして。

あと、取り上げるべき取組等がありましたら、御意見いただければと思います。

【一同】（意見なし）

【西崎委員長】 それでは、1ページの「イ」の後半部分を「定員確保に向けて引き続き努める必要がある。」と訂正するということと、最後の改善が望まれる取組について、「学習成果を十分に検証しつつ、教育課程の編成を見直すことが望まれる。」と。あと、今日の会議で AA 評価になった部分を付け加えるということによろしいですか。

【一同】（異議なし）

**議題2 公立大学法人岩手県立大学の平成25年度財務諸表に係る知事の承認について**

**議題3 公立大学法人岩手県立大学の剰余金の翌事業年度への繰越しに係る知事の承認について**

【西崎委員長】 それでは議題2に入らせていただきます。

議題2「公立大学法人岩手県立大学の平成25年度財務諸表の承認に係る事務局における確認について」と議事3「公立大学法人岩手県立大学の剰余金の翌事業年度への繰越しに係る知事の承認について」は併せてして審議したいと思います。

まず、事務局から説明をお願いします。

【事務局】（資料No.3及び4により説明）

【西崎委員長】 ただ今の説明につきまして、御意見等はございませんでしょうか。

【一同】（意見なし）

【西崎委員長】 目的積立金の額は、どこを見れば分かりますか。

【事務局】 資料4の2ページの参考2、財務諸表では4ページの利益の処分に関する書類（案）です。

【西崎委員長】 それでは、事務局案のとおりでよろしいでしょうか。

【一同】（異議なし）

**議題4 その他**

【西崎委員長】 その他、事務局から何かありますか。

【事務局】（特になし）

【西崎委員長】 委員の皆様から何かありますか。

【一同】（特になし）

【西崎委員長】 では、以上をもちまして、議事を終了させていただきます。

御協力どうもありがとうございました。